

2015年11月12日

報道関係各位

## 11月14日は世界糖尿病デー

### 2015年 世界の糖尿病患者数は4億1500万人に

11月14日の世界糖尿病デーに先立ち、IDF（International Diabetes Federation／国際糖尿病連合）は、12日、2015年の世界の糖尿病患者数や糖尿病が経済に及ぼす影響などをまとめた「IDF Diabetes Atlas 2015」を発表しました。

それによりますと、2015年の世界の成人（20-79才）における糖尿病患者数は、4億1500万人、11人に1人が糖尿病患者となりました。昨年のIDFの発表（3億8700万人）から2800万人増加し、IDFでは、2040年には10人に1人、6億4200万人が有病者になると予測しています。

#### IDF Diabetes Atlas 2015 抜粋

##### 【2015年】

- 20-79歳までの成人11人に1人、4億1500万人が糖尿病患者
- 成人糖尿病患者のうち、2人に1人（46.5%）が未受診
- 世界の医療費支出のうち、12%が糖尿病関連の医療費（6730億USD）
- 新生児7人に1人が妊娠糖尿病の影響を受けている
- 世界の糖尿病患者のうち4分の3は低・中所得国で生活している
- 世界の小児1型糖尿病患者数（0-14才）は、54万2000人
- 6秒に1人、500万人が糖尿病を原因として死亡

##### 【2040年】

- 20-79歳までの成人10人に1人、6億4200万人が糖尿病患者となる
- 糖尿病に関連する医療費は、8020億USD

日本では、世界糖尿病デー実行委員会（公益社団法人日本糖尿病協会・一般社団法人日本糖尿病学会）が中心となり、世界糖尿病デー当日の11月14日（土）を中心に、国内の著名な建造物をシンボルカラーのブルーにライトアップして糖尿病の正しい知識を啓発します。

ブルーライトアップ9年目の今年、全国約190か所の有名建造物が青い光に包まれます。ライトアップの数は今年も過去最多記録を更新し、糖尿病の脅威を市民に伝える機会として定着してきました。さらに、11月9日～15日の1週間は全国糖尿病週間でもあることから、ライトアップだけでなく、各地で無料の血糖測定や健康相談、運動イベントや講演会なども同時開催して、糖尿病患者さんや予備群、一般市民に向けて糖尿病の正しい知識を提供します。

## ■IDF Diabetes Atlas 2015■

	2015 年	2040 年
世界の人口	73 億人	90 億人
成人人口 (20-79 歳)	47 億 2000 万人	61 億 6000 万人
若年人口 (0-14 歳)	19 億 2000 万人	
<b>糖尿病のデータ (20-79 歳)</b>		
世界の有病率	8.8% (7.2-11.4%)	10.4% (8.5-13.5%)
糖尿病患者数	4 億 1500 万人 (3 億 4000 万~5 億 3600 万人)	6 億 4200 万人 (5 億 2100 万~8 億 2900 万人)
糖尿病での死亡数	500 万人	
糖尿病関連の医療費(20-79 歳)	6730 億 USD	8020 億 USD
<b>妊娠時の高血糖状態 (20-49 歳)</b>		
割合	16.2%	
出生数	2090 万人	
<b>耐糖能異常 (予備群)</b>		
世界の有病率	6.7%	7.8%
患者数	3 億 1800 万人	4 億 8100 万人
<b>1 型糖尿病 (0-14 歳)</b>		
1 型糖尿病患児数	542,000 人	
毎年新たに診断される患児数	86,000 人	

### <地域別にみた糖尿病有病率 (20-79 歳の年齢調整済み有病率) >

地域	2015 年	2040 年
北アメリカ・カリブ地域	11.5% (9.5-13.0%)	12.0% (9.5-13.7%)
中東・北アフリカ地域	10.7% (7.4-14.2%)	11.1% (7.7-14.9%)
中・南アメリカ地域	9.6% (8.2-11.5)	9.7% (8.2-11.7%)
西太平洋地域	8.8% (7.7-10.8%)	9.0% (8.0-11.2%)
東南アジア地域	8.8% (7.3-10.8%)	9.9% (7.9-12.8%)
ヨーロッパ地域	7.3% (5.5-10.9%)	7.6% (5.7-11.2%)
アフリカ地域	3.8% (2.6-7.9%)	4.2% (2.9-8.4%)

- アフリカでは 3 分の 2 以上の糖尿病患者が未受診
- 北アメリカ・カリブ地域では、成人 8 人に 1 人が糖尿病患者
- ヨーロッパでは小児 1 型糖尿病の有病率が最も高い
- 東南アジアでは、新生児のうち 4 分の 1 が妊娠時の高血糖の影響を受けている
- 世界中の糖尿病患者の 37% が西太平洋地域に集中している
- 中東・北アフリカ地域では、成人糖尿病患者の 10 人に 4 人が未受診
- 中・南アメリカ地域では、2040 年に糖尿病患者数が 65% 増加する

<成人（20-79歳）糖尿病患者数 上位10カ国>

順位	国	2015年患者数	順位	国	2040年患者数
1	中国	1億960万人	1	中国	1億5070万人
2	インド	6920万人	2	インド	1億2350万人
3	アメリカ	2930万人	3	アメリカ	3510万人
4	ブラジル	1430万人	4	ブラジル	2320万人
5	ロシア連邦	1210万人	5.	メキシコ	2060万人
6	メキシコ	1150万人	6	インドネシア	1620万人
7	インドネシア	1000万人	7	エジプト	1510万人
8	エジプト	780万人	8	パキスタン	1440万人
9	日本	720万人	9	バングラデシュ	1360万人
10	バングラデシュ	710万人	10	ロシア連邦	1240万人

■ 関連ウェブサイト ■

IDF	<a href="http://www.idf.org/">http://www.idf.org/</a>
IDF Diabetes Atlas	<a href="http://www.diabetesatlas.org">http://www.diabetesatlas.org</a>
世界糖尿病デー実行委員会	<a href="http://www.wddj.or.jp/">http://www.wddj.or.jp/</a>
日本糖尿病学会	<a href="http://www.jds.or.jp/">http://www.jds.or.jp/</a>
日本糖尿病協会	<a href="http://www.nittokyo.or.jp/">http://www.nittokyo.or.jp/</a>

★IDFとは・・・

International Diabetes Federation (IDF／国際糖尿病連合)は、170カ国・地域から230以上の糖尿病関連団体が参加する組織で、1950年から世界の糖尿病関連団体をリードし、増加する糖尿病患者とその予備群を支援する活動を展開しています。

★IDF Diabetes Atlasとは・・・

IDFが発行するDiabetes Atlasは、2000年に初版発行後、2年に一度、IDFと世界の専門家が協力し、糖尿病患者数、発症率、死亡率、世界・地域・国レベルの医療費支出などのデータを収録しています。

★世界糖尿病デーとは・・・

世界糖尿病デーは、1991年にIDFとWHO（世界保健機関）によって、増加する糖尿病への関心の高まりに対応する目的で創設されました。そして、2006年の国連総会での「糖尿病の脅威に関する決議」採択とともに、公式な国連の日として認定されました。世界糖尿病デーは世界最大級の糖尿病啓発キャンペーンで、160カ国、10億人以上が参加します。キャンペーンは、糖尿病に関わる多くの問題を解決することと、市民や政治に糖尿病への関心を高めてもらうことに注力しています。

\*\*\*\*\*

◇世界糖尿病デーに関するお問い合わせ先◇

公益社団法人日本糖尿病協会 事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-2-4 8F

TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725 E-mail : office@nittokyo.or.jp